

**JCMA 情報化施工委員会 i-Construction 普及WG**  
**i-Construction 施工 講習説明者認定試験および説明認定者向けの更新講習会**  
**実 施 概 要**

## 1. 主旨

JCMA 情報化施工委員会 i-Construction 普及WGでは、ICT 対応型工事が全国で広がっていることを背景として、i-Construction 施工 講習説明者試験（以下、説明者試験と略す）、および i-Construction 施工 説明認定者向けの更新講習会（以下、更新講習会と略す）を実施することにより、i-Construction 施工に関して同じ内容で説明・講習ができる担当者の育成をめざすものである。

## 2. 説明者試験

### 2.1 目的

説明者試験は、i-Construction 施工を正しく理解して顧客などに正確に説明ができるかどうかを判定することを目的として行うものである。受験者には、一律に認定証を交付し、さらに、一定以上のレベルに到達していると判定された者はマスターとして認定する。

### 2.2 概要

表1に、説明者試験の概要を示す。

表1 説明者試験の概要

項 目	内 容
所要時間	約半日(4~5時間程度)。試験および答え合わせと解説までを行う。
受験資格	(1) JCMAの会員(グループ会社等は含まない)で、以下に該当する者 <ul style="list-style-type: none"> <li>・i-Construction施工説明者の新規認定取得希望者</li> <li>・i-Construction施工説明者の一部科目未取得者で当該科目の新規取得希望者</li> </ul> (2) 受験回数には制限は無い。
受験費用	8,000 円/人
試験方法	(1) 令和元年度版共通資料テキストをもとに、穴埋め形式で問題を出題する。 (2) 試験科目は、以下の6科目であり、全科目合格者をマスターと称する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「i-ConstructionとICT活用工事」</li> <li>・「ICT活用工事の座標と測位」</li> <li>・「ICT活用工事の3次元計測技術」</li> <li>・「ICT建設機械とICT活用工事」</li> <li>・「ICT土工の流れ」</li> <li>・「ICT活用工事のデータ処理」</li> </ul>
運 営	(1) 問題用紙は、本部で必要部数を印刷した後、支部に郵送する。 (2) 試験立会い者および解答説明者として、i-Construction普及WGの委員を派遣する。 (3) 受付業務や試験監督員等の補助員として、支部会員から約2名を派遣していただく。 (4) 試験終了後に、解答説明とともに、答え合わせを自己採点形式で行う。

### 3. i-Construction 施工説明認定者向けの更新講習会

#### 3.1 目的

更新講習会は、主に国交省が新規に策定する要領等の最新の情報・動向の提供・周知等を目的として行うものである。対象者は、説明者試験の合格者（全科目、及び一部科目合格者）である。

また、受講者の認定証の有効期限は設けないものの、毎年、国交省の基準類が新規策定・改訂され、前年度の講習内容では対応できなくなることから、毎年の受講が求められる。

#### 3.2 概要

表2に、更新講習会の概要を示す。

表2 更新講習会の概要

項目	内容
所要時間	2～3時間程度。
受講資格	(1) JCMAの会員(グループ会社等は含まない)で、以下に該当する者 ・i-Construction施工説明者試験の全科目合格者または一部科目合格者 (ただし、一部科目合格者はその科目のみの認定となる。)
受講費用	6,500 円/人
講義内容	令和元年度版共通資料テキストをもとに、以下に示す科目や新規に要領が策定された工種を中心として、最新情報・動向等について説明・解説を行う。 ・「i-ConstructionとICT活用工事」 ・「ICT活用工事の座標と測位」 ・「ICT活用工事の3次元計測技術」 ・「ICT建設機械とICT活用工事」 ・「ICT土工の流れ」 ・「ICT舗装工の流れ」 ・「ICT活用工事のデータ処理」
運営	(1) 講師として、i-Construction普及WGの委員を派遣する。 (2) 受付業務や講義補助員として、支部会員から1名程度を派遣していただく。 (3) 講義に使用するテキストは、事前に本部から支部に電子データで送り、支部から各受講者または各企業の窓口宛てに電子データで送る。受講者は、各自でダウンロードしたパソコンを持参するか、あるいは印刷物として持参する。 講習会当日は、主催者から配布することはない。

### 4. 開催の流れと本部・支部の役割

次頁の図1に、説明者試験および更新講習会の開催の流れと、本部（i-Construction 普及WGを含む）と支部の主な役割を示す。

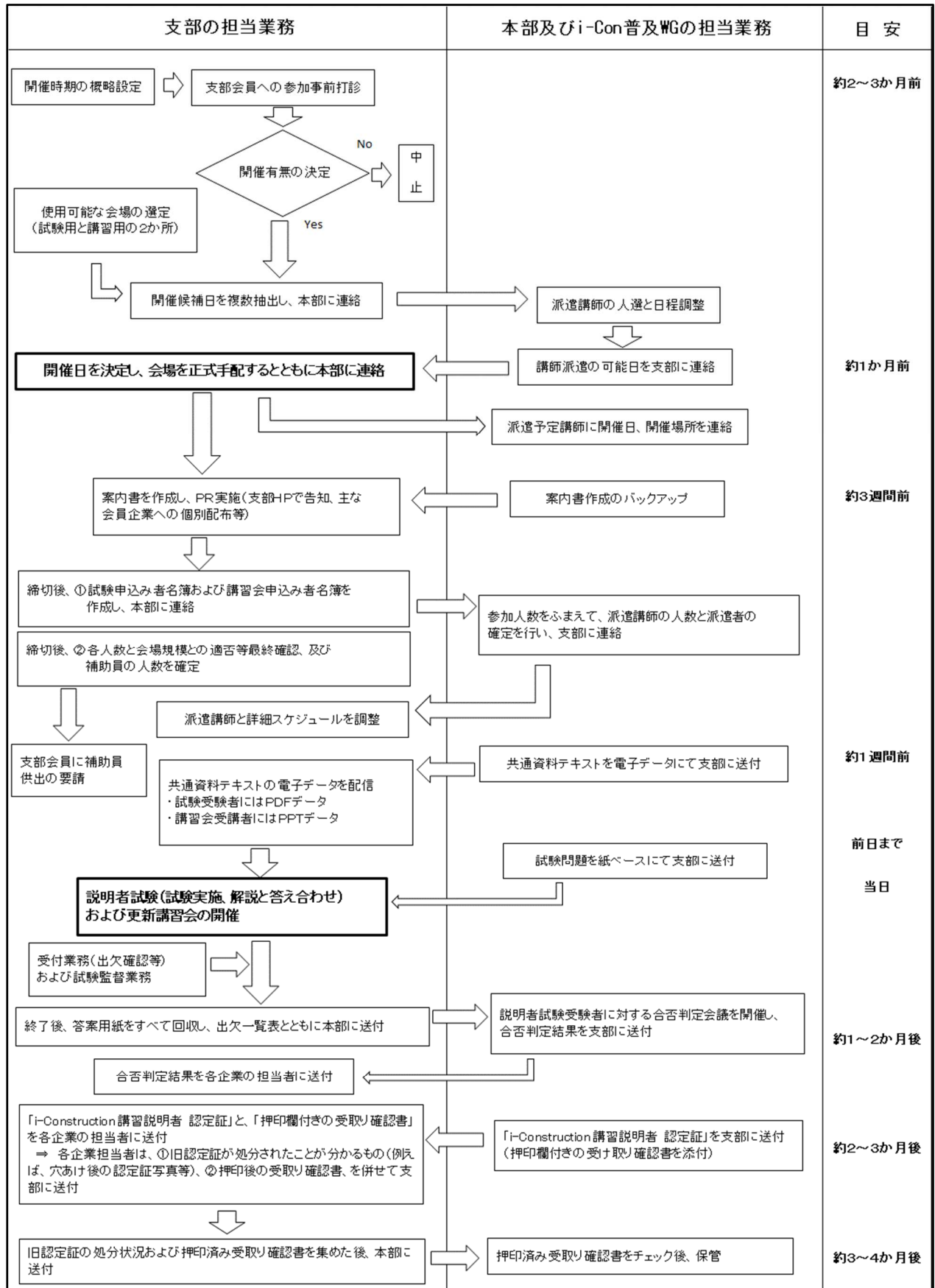


図1 説明者試験および更新講習会の開催の流れと、本部等と支部の主な役割

## 5. 詳細・留意事項等

### 5.1 説明者試験

- ①試験は、表3に示したように全部で6科目であり、70%以上の正解に達した場合にその科目は合格と判断し、さらに、6科目すべてが合格に達した受験者に対してはマスターの認定証を交付する。
- ②試験の終了後に、講師による答え合わせ及び解説を行う。採点は、自己採点形式で行う。  
したがって、受験者には、通常使用する黒の筆記用具（黒鉛筆、黒のシャープペン等）に加えて、色付きの筆記用具（赤鉛筆、赤ボールペン等）を持参させる。  
持参し忘れた者に対しての貸し出し用として、あらかじめ支部の方である程度の予備を準備しておく。
- ③答案用紙は、主催者が必ずすべて回収する（受験者の持ち帰りは厳禁。持ち帰った場合は不合格処分とする）。

表3 試験分類科目と区分

		平成30年度	令和元年度
受験科目番号		分 類	
1	概要	i-Construction（ICT活用工事の概要）	i-ConstructionとICT活用工事
2		ICT活用工事基礎	ICT活用工事の座標と測位
3	個別技術	3次元計測(出来形管理)	ICT活用工事の3次元計測技術
4		ICT建機	ICT建設機械とICT活用工事
5		TS,GNSS測位	ICT土工の流れ(ICT舗装工の流れ)
6		点群、設計データ処理	ICT活用工事のデータ処理

### 5.2 更新講習会

- ①講習に使用するテキストは、当日印刷物での配布は行わない。各自で印刷、またはデータを入れたパソコンを持参させるようにする。
- ②可能であれば、認定証を持参させる（必須ではない）。
- ③一部合格者に対する更新の認定は、合格している科目に対してのみである。

### 5.3 認定試験および更新講習会の当日スケジュール例

①試験および講習会は、原則として同日に実施し、そのスケジュール目安は、以下の通りである。

表4 当日スケジュールの目安

	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
◆ 認定試験	12:15						
開場	●						
試験		13:00	[ ]		15:30		
答え合わせ					15:40	[ ]	
◆ 更新講習		12:30					
開場		●					
講習			13:15	[ ]		15:30	

### 5.4 会場

①試験用と講習用の2か所を確保する。両会場の場所は下記理由により極力近い方が望ましい。

当日の講師のスケジュールは、おおまかに以下の通りである（表4参照）。

- ・認定試験での冒頭に概要説明（約10分程度）し、その後講習会会場に移動。
- ・講習会会場にて、認定者向けに説明（約2.5時間程度）を実施し、終了後試験会場に移動。
- ・試験会場にて、答え合わせと解説（約2時間程度）を実施。

②形式はスクール形式とする。

③主な必要設備は、プロジェクター、スクリーン、マイク、スピーカー

### 5.5 合否判定から認定証の発行まで

①支部は、受験者の答案用紙をすべて回収し、受験者名簿とともに本部に送付する。

②本部では、受け取った答案用紙を精査して、最終的な受験者の合否を確定するために、合否判定会議を開催する。

③合否判定会議は、(仮) i-Construction 普及テキスト作成委員会に所属する委員で構成される。

④合否判定会議によって確定した合否判定結果を本部から支部に送る。

④本部では、試験合格者とともに更新講習会の受講者に交付する認定証を作成し、受取り確認書と併せて支部に送付する。

⑤支部では、各企業からの押印済み受取り確認書を受領した後、とりまとめて本部に送付する。

⑥送付された受取り確認書は、本部にて保管する。